

科目「中学美術」シラバス

1. 中学3年間での教科到達目標

①絵画、立体、デザイン、工芸を中心とし、美術を通じて材料の扱い方や基本的な表現手段の基礎を習得する。	②創造的な感性と個性を活かし、芸術性の追求を目指す。	③ 美術の授業を通じて、芸術を愛好する豊かな情操を育み、個性を認め合う、柔軟でおおらかな鑑賞力と知識を習得する。
--	----------------------------	--

2. 科目の到達目標と評価の観点

(教科名) 美術 科目 美術 1	単位数 1 単位	学科・学年・学級 第1学年	使用教科書と補助教材 教科書：美術 1 美術との出会い 日本文教出版 副読本：新造形と美術 浜島書店
学習の到達目標	基礎的な画材の扱い方の習得と、描写力を身につける。個性豊かな表現を主体性を持って研究することを目標とする。		
評価の観点	<知識・技能> 基礎的な描写力と、技術。作品に対する真摯な取り組む姿勢を評価する。 <思考力・判断力・表現力> 作品に対しての思考や責任感。個性豊かな表現力を評価する。 <主体性・多様性・協働性> 授業中の主体性を持った制作態度と、個々の作品を認め合う柔軟でおおらかな視点を評価の対象とする。		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

- A : 「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・・・・ 100%
B : 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・ 80%
C : 「努力を要する」状況と判断されるもの ・・・ 60%
D : 未提出、未実施 ・・・ 0%

【教科横断、外部との連携】

- ①授業中に制作した作品を公募展に出展する。
- ②美術史を日本、世界史を踏まえて学び、作品を鑑賞する。

月	単元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
1 学 期	美術ガイダンス ① 美術の教科書紹介 ② 画材の説明 ③ 美術室の説明 ○ 1学期課題 「色相環」 デザイン基礎	○一年間を通じて教科書と副読本を活用する。 ○絵の具セット、スケッチブックの扱い方を学ぶ ○ロイロノートにレクチャー画像を配信する。	○美術の授業に必要な道具類の把握。教科書と画材等に、名前記入をすることで紛失予防の徹底。 ○教室内の設備、備品の扱い方の周知で生徒の制作が行いやすくなる。 ○欠席者への配慮。 ○鉛筆、定規、コンパスを用いて図面の下書き制作。 ○教科書 P 72 ○副読本 P 46～47 画材の扱い方を着彩しながら習得する。 スケッチブック、アクリルガッシュ絵の具セットを使用する。
4 月		○色相環の下書き ○色彩の基礎を学ぶ。 教科書を参考にしながら、色彩の性質や働きを学び主に色相、明度、彩度の3つの要素を取り入れて描く。	
5 月		○絵の具や筆の使い方を学ぶ 作品	○下書きの線をはみ出さないように彩色する。
6 月	○絵画制作 パステル画 「お話の世界」	○作品画面に色の名前、絵の具名、色相についての記述を行う。	○提出に必要な要素が描かれているか確認。 ① 全てのマス目に着彩がされている。 ② 色相の用語、絵の具、色の名前記入がされている
7 月		○自分の選んだお話から、イメージを膨らませ、絵画構成する。 ○パステルの画材の扱い方を学ぶ。 ぼかし、混色、練り消しゴムの技法を習得する。 ○作品の裏側に自分の選んだお話の場面の解説と理由を書く。	○過去の作品を鑑賞し参考にする。 ○パステルの画材に慣れる事で、多彩な表現方法を習得する。 ○提出に必要な要素が描かれているか確認。 ①パステルの混色を画面上にしている ②解説と理由の記述。

夏 休 み 課 題	<p>○夏休みの課題 「夏休みの思い出」美しい風景との出会いや、心に残る風景を絵に表現する。 アクリルガッシュ又は水彩絵の具を用いて画用紙1枚に描く。</p>	<p>○普段の身近な風景や、思い出の場所などを、鉛筆スケッチして着彩する。</p> <p>○旅行などの場所を描く場合、写真を撮り後で制作しても良い。</p> <p>○対象の風景が、時間と共に変わりゆく様子をスケッチすることで体感する。</p>	<p>○教科書P16～17 ○対象となる風景をよく観察する。</p> <p>○風景の写真を撮ると、制作しやすい。</p> <p>○アクリルガッシュ絵の具の特性を活かし水分量の調整、重ね描きをする。</p> <p>○2学期最初の授業内に提出をする。</p>
2 学 期	<p>○2学期課題 粘土作品 「喜びの形、悲しみの形」 塑造用粘土</p> <p>①エスキース</p> <p>②粘土土台作り</p> <p>○文化祭の展示のための作品準備。</p> <p>③粘土心棒制作</p>	<p>○立体表現の基礎を学ぶ。</p> <p>○教科書の参考作品と、過去の美術の授業で制作した参考作品を鑑賞する。</p> <p>○アイデアを考える。各自のスケッチブックに喜びと悲しみをテーマにして、アイデアスケッチを描く。</p> <p>○木製の土台を作る。 木工用ボンドで固定し、そりかえしのないように気を付ける。</p> <p>○1学期課題作品、夏休みの課題の展示用の準備を行う。 (名札、台紙貼り、ファイル)</p> <p>○エスキースをもとに土台に心棒を作る。</p> <p>○針金の空洞部分に新聞紙を詰める。</p>	<p>○教科書のP6～11 P14～15 ○副読本P36～40 ○テーマ 「喜びの形、悲しみの形」を自分の考えや体験を元に具体的な形を創造していく。</p> <p>○参考作品の鑑賞をして、自分の制作のアイデアのヒントにする。</p> <p>○木工用ボンドの扱い方を学ぶ。</p> <p>○乾燥するまで重しを置く。</p> <p>○ロイロノートにレクチャー画像を配信する。</p> <p>○材料の紹介、使い方の説明をする。 針金、ペンチ、万能ハサミ</p> <p>○心棒を作る際、注意する事。 ①しっかりと固定させ、グラグラさせないように作る。 ②針金の巻き方。 ③土台と粘土のコンポジションを考える。</p>

	<p>④粘土付け ❶ エスキースを見ながら制作する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○立体的な形の心棒は、しっかりと土台に固定されている必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○心棒がしっかりと固定されているか確認する。 ○生徒の作品に個々に対応する。
11月	<p>⑤粘土付け ❷ 心棒の上に粘土を重ね、形を作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○一回の制作時間が短いため粘土の扱い方に注意する。使用する粘土は、乾燥したのち再生不可能であるため、制作の手順に工夫が必要である。 ○粘土の扱い方、立体表現を学ぶ。 ○色々な方向から作品を見て形を作ることを学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○塑造用粘土は生徒1人に対し1袋だが制作が進むにしたがって足りない場合、補充用の粘土がある。 ○ロイロノートにレクチャー画像を配信する。 個々の欠席者に対応した配信を考える。
	<p>⑥粘土付け ❸ 仕上げに向けてより具体的な形を作る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○粘土表面に霧吹きを用いて水をかけることで制作しやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○細かいパーツを作る場合、粘土ヘラ、めん棒、ようじなどの道具類を工夫して使用する。 ○細かなパーツを木工用ボンドで接着する。
	<p>⑦着彩 アクリルガッシュ絵の具を使用。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○絵の具の粘度が高いと表面に細かな亀裂が入る事があるので、生徒に注意を促す。 ○土台部分の着彩をすることで、完成度の高い作品を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○必要な画材 <ul style="list-style-type: none"> ①アクリルガッシュ絵の具セット ②木工用ボンド ③黄色バケツ ○画材を忘れた生徒に対応するため、絵の具、筆、パレットの貸し出しの準備をする。
	<p>⑧仕上げニスを施す。 木工用透明ニスを使用。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○絵の具が完全に乾燥したのち、木工用透明ニスを1～2回、作品全体に塗る。 ○パーツを接着する。 木工用ボンド ○作品に題名、学年、氏名の書いた名札を貼る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ニスの塗り方の注意点 <ul style="list-style-type: none"> ①ニスの量の加減をする。 ②自然乾燥させる。 ○提出作品に名札が貼ってあるか確認する。 ○作品の提出場所は教室内の青いかご棚。

12月	<ul style="list-style-type: none"> ○作品提出の確認。 ○欠席者に対応。 ロイロノートに作品画像の提出を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作品に名札を付けていない生徒に連絡する。 ○作品未提出者に連絡する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○欠席者に対応 ロイロノートに画像を提出もしくは作品実物を美術準備室に提出する。
3学期 1月	<ul style="list-style-type: none"> ○3学期課題 「レタリング」 デザイン基礎 ①下書き 「永」の漢字の明朝体。 ②「永」レタリングの着彩。 ③アルファベットのデザイン アイデアと、下書き。 1文字自由にデザインする ④アルファベットの着彩 ⑤提出 ○西洋美術史を学ぶ。① 	<ul style="list-style-type: none"> ○明朝体、ゴシック体を主に漢字、アルファベットのレタリングを描く。 ○ポスターを描く場合に必要な技法を学ぶ。 ○黒板にレタリングを作画する。生徒と同時進行で作画することで、より分かりやすく説明する。 ○アクリルガッシュ絵の具で着彩する。 ○下書き線をはみ出さないように着彩する ○アルファベットの下書き線とデザイン画を鉛筆で描く。 ○アクリルガッシュ絵の具を用いて着彩する。 ○作品に名札を付けてクラスごとに乾燥棚に提出する。 ①「初期キリスト、ビザンティン、ロマネスク、ゴシック、ルネサンス美術」 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書P42~45 副読本P54~55 ○画用紙に作画用のマス目を描く。 ○必要な画材 <ul style="list-style-type: none"> ①スケッチブック ②鉛筆 ③定規 ④アクリルガッシュ絵の具 ⑤レタリングのプリント ○ロイロノートにレクチャー画像を配信する。 欠席者に対応する。 ○アクリルガッシュ絵の具はブラックを使用する。 ○絵の具の水分量を調整する。 ○デザインを自由に考える。 ○参考作品を鑑賞し、自分のアイデアの参考にする。
2月			<ul style="list-style-type: none"> ○画用紙の白色部分を活かし効果的な色彩の表現を目指す。 ○下書き線からはみ出さないように着彩する。 ○名札の付け忘れの確認。 ○教科書、副読本を使い参考資料を見る。

3 学 期 3 月	○西洋美術史を学ぶ。② ②「ロマネスク、バロック、ロココ、ロマン派、印象派、ジャポニズム、表現、フォーヴィズム、キュビズム、抽象、シュルレアリズム、現代」	○プリント2枚に記入しながら授業を進める。 ○参考資料を鑑賞しながら具体的に作品の解説を行う ○プリントを提出。 ○ロイロノートに配信する。	
	○3学期課題の提出 ①レタリング着彩画1枚 ②西洋美術史プリント2枚	○欠席者に対応。 ロイロノートに作品画像を提出。	○欠席者に対応。 学校登校時に作品実物を提出するように連絡する。

3. 学習計画及び評価方法等

評価の観点及び内容	評価方法（具体例）
<p>○知識・技能</p> <p>○対象をよく観察し描写することができる。</p> <p>○表現する内容を深く思考する能力がある。</p> <p>○丁寧な作業工程である。</p> <p>○芸術に対して好奇心をもち、工夫をすることができる。</p> <p>○作品の完成度を高め、仕上げることができる。</p>	<p>○学期課題の提出作品。</p> <p>○授業中の作品への取り組み方。</p> <p>○授業中の制作態度。</p>
<p>○思考力・判断力・表現力</p> <p>○個性豊かな感性であること。</p> <p>○アイデアなどの発想力が豊かであること。</p> <p>○作品の内容を深く思考することができる。</p>	<p>○学期課題の提出作品。</p> <p>○授業中の制作態度。</p> <p>○制作途中のスケッチブックのエスキース。</p>
<p>○主体性・多様性・協働性</p> <p>○画材や道具を正しく扱うことができる。</p> <p>○制作の準備を整えることができる。</p> <p>○教室内の片付けを行うことができる。</p> <p>○他の人の作品に対し、認め合い配慮することができる。</p>	<p>○授業中の様子。</p> <p>○授業後の片付けの様子。</p> <p>○画材の扱い方。</p> <p>○文化祭の準備の様子。</p> <p>○画材の忘れ物</p>

【提出物状況の評価基準】

- A : 作品が完成した状態で提出期限を守り、名札を貼っている。
(ロイロノートに画像を提出した場合、個別に対応する)
 - B : 作品は完成し、名札を貼っている状態だが、提出期限を守っていない。
 - C : 「努力を要する」状況と判断される
 - D : 作品未提出の状態。